



# イクジイ世代にお伝えしたい 周産期のこころのこと



■信州大学医学部周産期のこころの医学講座の特任講師・村上寛先生による連載コーナーです。  
今回は、「周産期のこころの外來」をサポートしている薬剤師さんが、「妊娠と薬」について解説していただきます。

## 妊娠と薬 信州大学医学部附属病院 薬剤師 小澤秀介

皆さんはじめまして。信州大学医学部附属病院で薬剤師として働いている小澤秀介と申します。私は大学病院の中でも小児科・産婦人科を専門としており、妊婦さんや妊娠を希望している方へ、妊娠中や授乳中のお薬の使用についてカウンセリングをしています。

カウンセリングでお話をさせていただくと、妊娠中(妊娠と気づかない時期を含む)に飲んだ薬はおなかの赤ちゃんにどのような影響があるのか、薬局で市販されている薬やビタミン剤は安全なのか、というような薬についての疑問や不安を感じている方が非常に多いと感じています。薬を飲んだ後で「おなかの赤ちゃんへの影響は大丈夫かな?」と不安になったり、お母さんにとって必要な薬を飲むのをやめてしまったりする方もいます。今回は、妊娠中の薬の考え方について、多くの方に知っていただきたいと思います。

### 妊娠中の薬と先天的な赤ちゃんの病気について

実は、薬を何も飲んでいない健康な妊婦さんでも、約3~5%の割合で生まれつき病気を持っている赤ちゃんが産まれます。このうち、病気の原因が薬によるものは1%未満とされています。もちろん、妊娠中に服用して絶対に安全なお薬は存在しませんが、特殊な薬を除いたほとんどの薬は、赤ちゃんへの影響は少ないと考えられています。

### 妊娠と薬の考え方

薬が赤ちゃんにどのように影響するのは、①どんな種類の薬を飲んだのか、②どのぐらいの期間どのぐらいの量を飲んだのか、③妊娠中のどの時期に薬を飲んだのか、によって決まります。特に、薬の量が多い場合は赤ちゃんに薬が届きやすくなります。また、1回だけしか飲んでいない場合や、毎日続けて飲んでいった場合など、どのぐらいの期間、薬を飲んでいるのかでも届きやすさは変わります。

### 妊娠の時期と薬の影響

次の表は妊娠の時期と赤ちゃんへの影響をまとめたものです。

妊娠0週 ~3週まで	この時期にお母さんが飲んだ薬は、おなかの赤ちゃんに影響することはありません
妊娠4週 ~7週まで	重要な臓器の形成が行われるこの時期は体の形成において <b>赤ちゃんが最も敏感な時期</b> です。薬の影響を最も受けやすい時期なので、自分の判断で薬を飲むのはやめて、産婦人科医師や薬剤師に相談しましょう
妊娠8週 ~15週まで	重要な臓器の形成が終わり赤ちゃんの薬に対する感受性は次第に低下してきますが、まだ薬の影響は受けやすい時期です
妊娠16週 ~お産まで	臓器の形成が終わり、赤ちゃんの体の形成に対する薬の影響の心配はなくなりますが、 <b>赤ちゃんの体の機能や発育などに薬が影響を及ぼす時期</b> になります

赤ちゃんの体が作られている時期に、影響が出やすい薬を飲むと生まれつき病気を持ってしまう可能性が高くなりますが、それ以外の時期では赤ちゃんへの影響は少ないと予想できます。ただ、影響が出やすい時期に薬を飲んだとしても、必ず病気をもった赤ちゃんが生まれる訳ではありません。そのため、予期せず妊娠中にお薬を服用しても、主治医の先生と相談しながら、妊娠経過を注意してみてくださいということがほとんどです。

### 【妊娠中の市販の薬の使用】

ドラッグストアなどで売られている風邪薬には、「熱を下げる」、「咳を止める」、「鼻水を抑える」など色々な効果が書かれているものがあります。実はそれらの薬の中にも赤ちゃんに影響を与える可能性のある成分が含まれています。例えば、熱を下げたり痛みをとったりする薬では、アセトアミノフェンという成分があり、妊娠中でも安全な薬として使用されています。一方、アスピリン、イブプロフェン、ロキソプロフェンといった成分は妊娠後期には使用しない方が良く考えられています。

### 妊娠中に薬を使用する前に

妊娠中に薬を使う場合には、これまでに書いたようなことを考えながら薬を選んでいくことになります。専門的な知識が必要になりますので、まずは医師や薬剤師に相談してください。また、病院を受診する際は、必ず妊娠中であることを伝えるようにしてください。今、妊娠のどの時期なのか、赤ちゃんに影響が出にくい薬はあるか、などを考えて、安全に使用できる薬が処方されます。

### 持病で治療をされている方へ

持病のある方で妊娠を希望される場合は、妊娠する前に治療方針(どの薬を使うか)を主治医と相談していくことが重要です。妊娠が分かったからと言って急に薬を変えたり中止したりすると、お母さんだけではなくおなかの赤ちゃんにも良くない影響を与えてしまうことがあるからです。主治医と相談した結果、お母さんの病気の状況によって、薬の内容や量を調節しながら飲み続けてもらう場合もあります。妊娠中に薬を飲むのは不安な方もいると思いますが、治療に必要な薬を飲み、お母さんの体調を良い状態に保つことは、おなかの赤ちゃんの体調管理にも繋がります。

### 最後に

妊娠中の薬について気になることがあれば、まずは、産婦人科医師、かかりつけの医師や薬剤師に相談してみましょう。さらに詳しく知りたい場合には、妊娠と薬に関する専門機関「妊娠と薬情報センター」に相談して疑問や不安を解消することもできます。妊娠と薬情報センターは、妊娠中の薬と赤ちゃんへの影響についての情報が集められており、電話や各都道府県にある「妊娠と薬外來」で相談することができます。長野県では、松本市にあります信州大学医学部附属病院が「妊娠と薬情報センター拠点病院」として指定されており、妊娠と薬に関する専門的な相談が可能です。

### 【妊娠と薬に関する相談機関】

国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター  
<https://www.ncchd.go.jp/kusuri/>  
 信州大学医学部附属病院 妊娠と薬外來  
<https://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/outpatient/pregnancy.php>

### 村上寛の育児日記

10月10日に我が家全員で松本山雅の試合を観戦しました。私と松本山雅で企画したママサポチケットは我が家にとっても非常に有難いチケットですが、私達は別の席で観戦しました(というよりも、ママサポチケットは発売開始と同時に売り切れているので、買おうと思っても買えなかったと思います)。応援のドラムの音が心地良い、楽しいひと時でした！がんばれ松本山雅！



「ハーフタイムにお店でかき氷を買った子どもたち」